

# 第5学年 学級活動（1）指導案

令和3年5月19日（水）第5校時

第5学年2組27名

指導者 高橋 有美

「主体的に学びに向かう児童の育成」  
～自分や友達のことを知り、わかり合える活動を通して～

## 1 議題

「クラス全員がつながれて楽しめるじん取り合戦の工夫について考えよう」

## 2 議題について

### （1）児童の実態

本学級は、5年進級時にクラス編成を行い、新しいクラスとしてスタートしている。全体としてはエネルギーがあり、素直な児童が多い。高学年になり、委員会活動の仕事を張り切って行き、学校のために働く喜びを感じている。また、4月に学級目標を決め、みんなで学級目標に向かって頑張ろうという姿勢が見られる。学級の係活動にも、意欲的に取り組む児童が多い。一方、「自分ではできない」と自信がなかったり、進んで人のために声を掛けたり動いたりできない面も見られる。学習においては、自分の考えに自信をもって発表できる児童もいるが、まだ自信がない児童も見られる。今までの学習が十分に定着していない児童が多いことや、友達のよいところを取り入れるまでには、多くの子がそこまで至っていないと感じる。そこで、色々な教科や帰りの会等を使って友達のよさを見つけたり、自分の考えを伝えたりする場をもたせているところである。

### （2）話し合い活動（学級会）

学級会については、初めは教師が進め方を示し、4月から輪番制で司会グループが進行する学級会を行い始めたところである。学級会のオリエンテーションを行い、「学級目標を達成していくためにみんなでやりたいこと、話し合いたいこと」を基に「議題集め」で取り上げた議題などで学級会を行ってきているところである。オリエンテーションでは、学級会の5か条を示し、話し合いの原則を示した。

司会グループは教師がグループ分けし、5グループによる輪番制にした。グループ内の分担としては、司会・副司会・ノート記録・黒板記録（2名）の5人とし（2グループは、黒板記録3名の6人編成）、「議題集め→計画委員会（司会グループ会議）→学級会」という一連の活動を経験させている。課題としては、発言する児童の偏りや、皆の前で発言することに自信がもてないのか声が小さくなってしまふ児童が多いこと、決定の仕方等がある。全員の意見発表に関しては、事前に議題に対する自分の考えをもたせ学級会に臨むことにより、1回目の学級会から賛成意見とその理由について全員が発言することができた。ただし、まだ声が小さかったり賛成理由が十分でなかったりする児童も多く、2回目の学級会では自分から発言するのが難しい児童も見られた。一人一人が自分の考えを自分の言葉で安心して伝えられるようになり、それを学級全体が聞き合うことができるようになってほしいと願っている。

学級会を通し、学級の一員として、自分が意見を出したことで、学級がより楽しく、より仲良く、より過ごしやすくなっていくという経験をさせたい。それが、キャリア教育でいう「人間関係形成・社会形成能力」にもつながっていくのではないかと考える。また、それぞれが納得して集団決定をし、みんなで協力してつくり上げ実現させていく喜びを通し、「課題対応能力」や「自己理解・自己管理能力」の育成にもつながるのではないかと考えている。

なお、これまでの学級会での議題と決まったことは次の通りである。

学級会の回数	月日	議題	決まったこと
(教師主導＋児童委員の司会)	4月9日 (金)	学級の係を決めよう	学級の係活動決定 ミュージック係、お誕生日係 クラス遊び&お笑い係 みんな仲良く楽しく イベント係 恐怖のこわい話係、かざり係 スクープ！！新聞係、体育係
(教師主導)	4月12日 (月)	学級目標を決めよう	学級目標決定「幸～笑顔・絆・希望」
第1回	4月13日 (火)	5年2組のメインキャラクターを考えよう	それぞれが考えた学級目標の思いを込めたキャラクターからメインキャラクター1つ(犬のらっきー)とサブキャラクターを3つに決めた。また、それぞれが考えたキャラクターも学級目標に掲示し、生かすことができるようにした。
第2回	4月30日 (金)	学級目標の「幸せ」に近づくために、クラスの仲が深まり協力する学級集会でやることを考えよう	校庭での遊びは、陣取り合戦を行う。
第3回	5月19日 (水)	クラス全員がつながれて楽しめるじん取り合戦の工夫について考えよう	

### (3) 議題選定の理由

新しい学級がスタートして、学級目標を決定した。学級目標の達成に近づくために初めての学級集會を子供たちで考え、実行させたい。

提案理由に沿った意見の発表や遊びの工夫、決定の仕方を通して「みんなで決めたことは、みんなで実践する」という経験を積み上げていきたい。そして、自分達で決めたことを準備して実行し、振り返りを行うことで、これからの学級作りや行事にも生かしていきたい。

### 3 第5学年及び第6学年の評価規準

生活や人間関係をよりよくするための <b>知識・技能</b>	集団の一員としての話し合い活動や実践活動を通じた <b>思考・判断・表現</b>	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする <b>態度</b>
学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付ける。	学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な考えを生かして合意形成を図り、協働して実践している。	生活上の諸問題の解決や、協働して実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする。

### 4 研究主題に迫るための手立て・工夫

【高学年ブロックで研究主題に迫るために、身に付けたい力】（本授業で重視した力を下線とした。）

人間関係形成・ 社会形成能力 (つながる力)	自己理解・ 自己管理能力 (自分と向き合う力)	課題対応能力 (先を見通す力)	キャリアプランニング能力 (自分をつくる力)
① <u>友達の意見を聞く時、その人の考えや気持ちを分かろうとすること</u> ができる児童 ② <u>相手にわかりやすいように、自分の気持ちを話すことができる</u> 児童 ③ <u>進んで仕事を見つげながら、みんなと力を合わせて頑張ることができる</u> 児童	①自分の好きなことやよいところ、直したほうがいいところを探せる児童 ②やる気が起きない時でも、進んで取り組める児童 ③不得意な事や苦手な事でも進んで取り組もうとすることができる児童	①わからないことや知りたいことがあったら、自分で調べたり質問したりできる児童 ②何か失敗したとき、同じことが起きないようにどうすればよいか考えられる児童 ③ <u>先のことを考えたり、もっといいやり方を考えたりすることができる</u> 児童	①大きくなった時のことを考えて、勉強できる児童 ②自分の夢をかなえるために目標をもったり、夢をかなえるための方法を考えたりできる児童 ③自分の夢のために何かを頑張ることができる児童

## (1)学級会の基本的な進め方についての繰り返しの指導

### ① 議題の共有化

- ・学級会コーナーに事前に議題、提案者、提案理由、話し合うことを掲示

### ② 司会グループの輪番制

### ③ 司会グループへの事前指導

- ・活動計画の作成
- ・学級会グッズの活用(黒板表示、賛成・決定マーク、相談タイムの表示等)

### ④ 学級会ノートの活用

- ・事前に自分の考え(「出し合う」後に出された意見に対する自分の考え)を記入

### ⑤ 振り返りの場の設定

- ・学級会ノートでの振り返り(自己評価、自分が頑張ったこと、友達のよかったところ)

### ⑥ 適切な終末の助言

- ・ねらいについての評価、司会グループへの賞賛、本時でよかった具体的な児童への賞賛、実践への意欲付け

## (2)「くらべ合う」時間の確保

学級会は、「出し合う」→「くらべ合う」→「まとめる(決める)」という流れで展開するが、三つの段階の中で最も時間をかえたいのが「くらべ合う」段階である。「くらべ合う」段階の時間をしっかり確保して合意形成を図るために、「出し合う」段階は学級会の事前に行っておき(教室内に掲示)、本時は「くらべ合う」段階からスタートできるようにしておく。さらに、みんなが認識しているものについては、あらかじめ事前に了承を得て「決まったこと」に入れておく。

## (3)一人一人の意見を大事にする工夫

決まらなかった意見を入れ、次回以降に生かせる「意見の宝箱(らっきーの宝箱)」を設置することにより、一人一人の意見を大事にし、次回の話し合いにも生かすことができるようにした。

#### (4) 日常や他教科での取り組み

##### ○幸せ貯金

帰りの会で、友達によかったところや人のために進んで行動したこと等を発表している。お互いのよさや頑張りを認め合うことで、クラスでの居場所作りや円滑な人間関係の育成ができるようにしている。日直が、幸せ貯金の発言者とよかった行いで名前が挙げた友達の両方をノートに記録している。発言者や名前が挙げた人を蓄積することで、発表の動機付けや振り返りをしやすくしている。

##### ○スピーチ活動や話す・聞く活動

朝の会で、テーマを設定して(カードを引いて、引いたテーマに沿って話す)日直のスピーチを行っている。日常的に相手に伝えることや友達の話聞き相手を理解することを意識して行っている。日直のスピーチに対し、3人指名を行い、感想や質問を伝え合うことで話をより深く聞き、話をつなげて話すことができるようにしている。また、各教科でもペア学習やグループ学習を多く取り入れるようにしている。

##### ⑪道徳の授業や他教科との関連

7つの習慣を折に触れて話し、日常と関わって指導ができるように心がける。また道徳で、見方を変える授業(リフレーミング)や絵本を活用した授業を行い、自分や友達によさに気付くことができるきっかけを作っていく。

##### ⑫行事との関連

行事の際は、学年や学級で実行委員やグループを組織し、子供たちが主体的に考えたり行動したりできるようにする。行事の前には、事前に十分な指導や目標設定を行う。終わった後には、振り返りを行い、次の取り組みにつなげることができるようにする。

## 5 事前の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法 ☆キャリア教育で身に付けたい能力
5月7日(金) 業間の時間 昼休み	議題を選定する。 議題を全員に伝える。 司会グループの役割分担を決める。 全自分の考えをノートに書く。	・各提案の扱いを明らかにし、提案者に伝えられるようにする。 ・みんなが納得、理解できるような提案理由になるように、提案者も含めて提案理由を練る。 ・学級会全体の見通しがもてるようにする。	<b>【知識・技能】</b> 計画委員会の役割や準備の仕方など効率的な進め方を理解し準備することができる。 (観察) <b>【思考・判断・表現】</b> 効率的な話合いの進め方について考え自主的に準備することができる。(観察) ☆課題対応能力-③ <b>【主体的な態度】</b> 学級生活の充実と向上に関心を持ち、自主的に取り組んでいる。(観察・ワークシート)
5月10日(月) 業間の時間	集めた学級会ノートを確認し、短冊にする。	・全員の意見を踏まえて、話合いの見通しをもてるようにする。	<b>【思考・判断・表現】</b> 議題について自分の考えをもっている。(ワークシート)
5月13日(木) ～ 業間の時間	活動計画を立てる。 話合いの想定をする。 全出された意見に対する自分の考えをノートに書く。	・全員の意見を踏まえて、話合いの見通しをもてるようにする。 ・本番の話合いの流れを想定し、意見が出なかったときや、決めるのが難しかったときの進め方を考えられるようにする。	<b>【知識・技能】</b> 効率的な進め方を理解し準備することができる。(観察) ☆課題対応能力-③
5月19日(水) 朝	今日の流れを確認する。	・本番の想定ができるようにする。	

## 6 本時の展開

### (1) 本時のねらい

学級目標や提案理由を意識して、遊びややりたいことの工夫を考える。

### (2) 児童の活動計画

別紙参照

### (3) 教師の指導計画

児童の活動	指導上の留意点 ☆キャリア教育の視点	★目指す児童の姿と評価方法 ☆キャリア教育で身に付ける力
1 はじめの言葉 2 司会グループの紹介 3 議題の確認 4 提案理由の確認 5 決まっていることの確認 6 話合いのめあての確認 7 話し合うことの確認 8 話合い 柱①「学級目標や提案理由に沿った遊びの工夫を考えよう」 9 決まったことの確認 10 先生の話 (11 振り返り) 12 終わりの言葉	○提案理由について、意識できるようにする。 日時：5月25日(火) 4時間目 場所：校庭 ☆聞き手に伝わるように、自分の考えをと理由を話す。 ☆友達の考えを頷いたり返事をしたりしながら聞く。 ○話合いの記録をとり、活動を見守る。 ※以下の時は、指導する。 ・生活指導上、人権問題のあるとき。 ・自治的範囲を超えたとき。 ・ねらいから大きくそれたとき。 ・話合いが混乱したとき。 ・規律が乱れたとき。 ・発言者が聞き手を意識できていないとき。 ○司会グループが話合いを進めるのに困っているときには、全体に声をかけて、進め方の提案を引き出す。 ☆出てきた考えをまとめ、集団決定する。 ○記録をもとに、終末の助言をする。 ○実践への意欲付けをする。	【主体的な態度】 ★司会グループの自分の仕事や話合いに積極的に取り組んでいる。(観察) 【思考・判断・表現】 ★提案理由に沿った発言をすることができる。(観察) ★友達の意見を理解し合い、建設的に話し合い、合意形成を図ることができる。(観察) ☆人間関係形成・社会形成能力 -①、② 【知識・理解】 ★話合いの流れを理解し、話合いに参加している。 (観察) ☆課題対応能力-③

## 7 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点
5月20日(木)	役割分担を決める。(司会、始めと終わりの言葉、プログラム、ルール説明と準備など)	
5月21日(金) ～ 25日(火)	係ごとに、準備を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各係のやることと進捗状況がわかるように係の連絡ボードに、各係が書き込めるようにする。</li> <li>必要に応じて、打ち合わせをする。</li> </ul>
5月26日(水)	学級集会の実施と実施後の振り返り。	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施前に、提案理由の確認をして、児童が意識して活動できるようにする。</li> <li>実施後には、提案理由と決まったことに沿って振り返るように声をかける。</li> </ul>

### <高学年分科会> 授業を見ていただく視点

- ① 全員が自分の考えをもち発表することや、司会グループの輪番制、終末の助言は、自分の役割を担い、自信をもつことにつながったか。
- ② 学級会ノートの活用や振り返りのさせ方は、考えを発表するためや自己理解のための手立てとして有効であったか。
- ③ 学級集会のやること決めや工夫を自分達の提案理由をもとに話し合うことにより、主体的な話し合いをすることにつながったか。